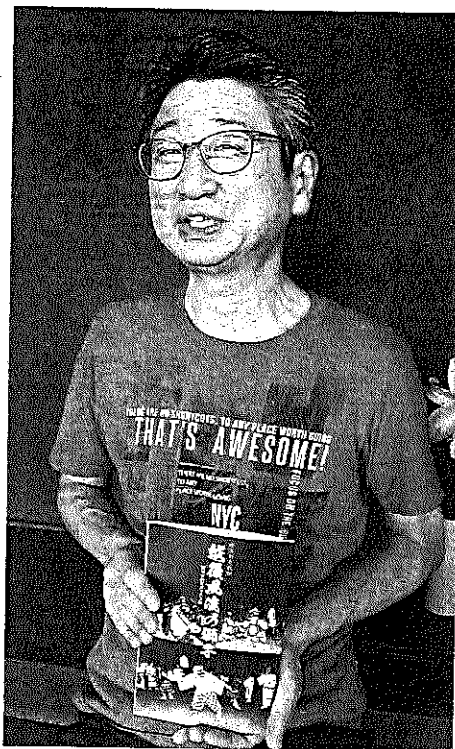




著書「越後風流の獅子」を手にする新藤幸生さん＝新潟市秋葉区

新潟市秋葉区小戸下組で毎年8月下旬に行われる秋季祭礼で披露される「小戸下組獅子踊り」の概要や歴史をまとめた冊子が完成した。約200年前に獅子踊りが小戸下組に伝わった際の古文書などを解説。五穀豊穡と家内安全を願う地域に欠かせない舞の伝承に一役買いたい考えた。

小戸下組保存会の新藤さん

古文書読み込み 「200年史」を執筆

秋葉区

タイトルは「越後風流の獅子」で、小戸下組獅子保存会に所属する同所、新藤幸生さん(62)が執筆し、8月中旬に完成。300部制作し、一部を町内会などに配布した。

小戸下組獅子踊りは新潟市文化財で、雄2匹、雌1匹の計3匹の獅子が一組になって踊るのが特徴。今年は25、26の両日に演じられた。そのうち、雄獅子については雌と同じで角がないことや、身にまとう幕には由緒ある「源氏車紋」があらわれていることなどを解説している。また、雄と雌が2対1になった理由は不明という。

新藤さんは「男女を描く歴史的な文学作品には三角関係を描いたものも多い。その影響を受けたのではな

いか」と推測する。

執筆に当たり、新潟図書館に所蔵されている古文書「獅子踊り歌詞秘め書き」を読み込んだ。同書は1813(文化10)年、現在の江南区和田から小戸下組に踊りが伝授された際に渡された貴重な資料という。

同書には獅子踊りを舞う際の歌が書かれているが、長い時を経ているため、現在とは大部分が異なるという。新藤さんは「伝承が大変なものということが分かった。いろいろな世代が一緒にになって取り組みたい」と話している。

この他、阿賀野市出身の歴史地理学者、吉田東伍が県内の獅子踊りについて触れている「大日本地名辞書」の一部分も紹介した。

A5判436、千円(税別)。問い合わせは「本の店 英進堂」、0250(24)1187。